

以上の高率配當をなしつつあるのである。今回勃發の爭議期間中沿線の住民は可成の不便を感じつつあつたに不拘會社の態度は不誠意極るもので、即製の運轉手をもつてせる爲に因して列車事故頻發し十六日粉濱驛に於て滿員電車にふり落され電車と歩廊の間に挟まれ胸部を壓迫され遂に死亡した人さへ出した外、十八日午前七時四十分ごろ罷業中の南海電車和歌山、難波普通車(三輛連結)が岸之里にて電車から振落され後頭部を強く打つて瀕死の重傷を受けし乗客があつた(大阪朝日所載)等々南海沿線今宮、玉出、粉濱、住吉方面の住民が如何にこの一週日間に於ける時間的に經濟的に精神的不快と脅威とを與へられたかは想像以上だ、筆者は南海上町線に住んで居る關係上直接には今回の南海鐵道會社の暴狀は體驗せなかつたが、玉出の某有志の談では言語につくされなものであると言ふ、この間南海線を利用して大阪に出る人々は第一に感じたことであらうが車内運轉臺には必ず一名の正服巡查の監視によつて運轉されて居たことを目撃したであらう。それが爲めに乗客を初め一般従業員でさへも不穩の數日を過したものだ、兎角自由を好む人間はかゝる武裝的監視の下にあることを云うことは好まない。第三者をしてもこの爭議の責任を事實的に問はば南海當局にありと直に答へ得るであらう。會社側は經營者としてあくまで社會的責任をもつて始終せねばならぬ。爭議團の聲明に依れば會社は株主の利益のみを主として云々である。かねて南海會社は好況時代に於て石炭その他物價騰貴を理由として他の鐵道、電鐵等と同様乗車賃銀を値上げしそのまゝ今日及び一割二分の配當をつつけてゐる。これ等を見ても、公益事業鐵道會社として

横暴利得だと言われても一言もあるまい、殊に同社重役連は無能の人物をもつて満たされてゐるのである。茲數年後の南海はわが關西電鐵會社中の殿りになることは専門家の等しく識る所であつて、同社の缺陷について一々摘發することは明晩のお楽しみであるが、兎に角同社は株主及び重役に都合のいい會社であることは疑ない今回の爭議に際しても渡邊社長は(七月十六日午前十時)對岸の火車を見るが如く己れの美名の爲めに川崎造船所、十五、近江救濟問題とやらで永田町藏相官邸を訪問してゐる。この一事を見ても重役連が如何に會社、従業員に對する冷淡さが知れる、亦同社平重役連は年額(一萬二千圓)報酬を貪りつつあるが爭議が十三日午後四時突發せるにも不拘十四日正午近くになつても顔を出さないに來てゐるから驚かざるを得ない。同社の重役連は金さへ貰へば會社の内容が衰退しつつあつても如何なる事變が勃發しても平氣であるものが多いやうだ、重役の顔觸は六十歳以上の老人ばかりだからこれでは將來競争場裡に於て他社に蹴落されることも仕方があるまい、同社が今回罷業中に發表した定期昇給(従業員)を罷業不参加の褒美として一齊に臨時昇給を行つたこと云うが、若しもかゝる會社にそれ丈の餘裕力があるなれば何故に爭議前にこれを實行せなかつたか今回の爭議の動機は同志會幹部臆首にあるがその根本的出發を見るに去る五月中旬に同志會が會社に提出した待遇改善案を會社側は壓制的の握り潰しを行つたのである、若し南海當局が誠意あらばそれを爭議前に示したなれば今回の爭議も未然に防ぎ得たかも知れぬ、この一條を押ししても如何に南海當局者が無能政であるか亦今回の事件も會社の豫定的のものであつたことも云